

土木工事編(3) 新旧対照表

旧

- 2-3 補正係数
(1) 補正係数の適用基準

表2.2 補正係数の適用基準

| 規格・仕様 | | 適用基準 | 記号 | 備考 |
|-------|------------------|------------------------|----------------|------|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K ₁ | 対象数量 |
| | 空積の場合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K ₂ | 対象数量 |

- (2) 補正係数の数値

表2.3 補正係数の数値

| 区 | 分 | 記号 | ブロック積工 |
|------|------------------|----------------|--------|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | K ₁ | 0.95 |
| | 空積の場合 | K ₂ | 0.91 |

- 2-4 直接工事費の算出

直接工事費=設計単価(注1)×設計数量+材料費(注2)

(注1) 設計単価=標準単価×(K₁ or K₂)

(注2) 胴込・裏込コンクリートを施工する場合は、コンクリート材料費を計上する。材料費の計上は次式による。

材料費=コンクリート(胴込・裏込)材料単価×設計数量×1.12(ロス分)

3. 適用にあたっての留意事項

標準単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

- 布積、谷積を問わず適用出来る。
- 設計面積は、ブロック積本体の面積と調整コンクリートの面積を合計した面積とすること。
- 標準単価は、JISタイプの粗面ブロックを標準とする。
JISタイプの滑面・化粧ブロックを使用する場合は、次式により滑面ブロックとの材料単価差を加算する。ただし、補正係数を適用させる場合は、標準単価を補正した後、材料単価差を加算するものとする。
式：標準単価 [ブロック積工：円/㎡] × 補正係数 + 材料単価差 [粗面・化粧ブロック [円/㎡] - 滑面ブロック [円/㎡]]
なお、ブロックの㎡当り単価の算出は次式による。
式：ブロック単価 [円/㎡] = 材料単価 [円/個] × ㎡当り使用量 [円/㎡]
- ブロック積工は、目地、水抜パイプ等の施工(材料費含む)の有無に関わらず適用出来る。
- 遮水・止水シート及び吸出し防止材を全面に施工する場合は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」により別途計上する。
- 小口止コンクリートは、「第Ⅱ編第4章コンクリート工」により別途計上する。
- 基礎・天端コンクリートを施工する場合は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」の現場打基礎コンクリート工及び天端コンクリート工により別途計上する。
- 基礎・裏込砕石を施工する場合、基礎砕石は「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」、裏込砕石は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」により別途計上する。

新

- 2-3 補正係数
(1) 補正係数の適用基準

表2.2 補正係数の適用基準

| 規格・仕様 | | 適用基準 | 記号 | 備考 |
|-------|------------------|------------------------|----------------|------|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K ₁ | 対象数量 |
| | 空積の場合 | 対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。 | K ₂ | 対象数量 |

- (2) 補正係数の数値

表2.3 補正係数の数値

| 区 | 分 | 記号 | ブロック積工 |
|------|------------------|----------------|--------|
| 補正係数 | 裏込コンクリートを施工しない場合 | K ₁ | 0.95 |
| | 空積の場合 | K ₂ | 0.91 |

- 2-4 直接工事費の算出

直接工事費=設計単価(注1)×設計数量+材料費(注2)

(注1) 設計単価=標準単価×(K₁ or K₂)

(注2) 胴込・裏込コンクリートを施工する場合は、コンクリート材料費を計上する。材料費の計上は次式による。

材料費=コンクリート(胴込・裏込)材料単価×設計数量×1.12(ロス分)

3. 適用にあたっての留意事項

□で囲った部分に変更点になります。

標準単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。

- 布積、谷積を問わず適用出来る。
- 設計面積は、ブロック積本体の面積と調整コンクリートの面積を合計した面積とすること。
- 標準単価は、JISタイプの粗面ブロックを標準とする。
JISタイプの滑面・化粧ブロックを使用する場合は、次式により滑面ブロックとの材料単価差を加算する。ただし、補正係数を適用させる場合は、標準単価を補正した後、材料単価差を加算するものとする。
式：標準単価 [ブロック積工：円/㎡] × 補正係数 + 材料単価差 [滑面・化粧ブロック [円/㎡] - 粗面ブロック [円/㎡]]
なお、ブロックの㎡当り単価の算出は次式による。
式：ブロック単価 [円/㎡] = 材料単価 [円/個] × ㎡当り使用量 [円/㎡]
- ブロック積工は、目地、水抜パイプ等の施工(材料費含む)の有無に関わらず適用出来る。
- 遮水・止水シート及び吸出し防止材を全面に施工する場合は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」により別途計上する。
- 小口止コンクリートは、「第Ⅱ編第4章コンクリート工」により別途計上する。
- 基礎・天端コンクリートを施工する場合は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」の現場打基礎コンクリート工及び天端コンクリート工により別途計上する。
- 基礎・裏込砕石を施工する場合、基礎砕石は「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」、裏込砕石は「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」により別途計上する。